



看護ケア推進たより 17号

2018年2月



“おはよう運動”を盛り上げよう！！



旧病院から看護部で実施していた朝の挨拶係りが“おはよう運動”となりました。

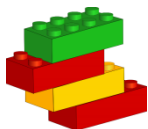
「おはよう」と職員同士が声を掛け合うことで明るい病院になるように、また朝の玄関で患者さんや来院者が不便なく過ごせるように援助して、来なくなる病院にすることを目的にしています。

具体的には、朝8時から8時30分まで病院玄関で看護師2名が挨拶と来院者への案内・誘導・手助けなどを行っています。

今の時期は寒くて大変ではありますが、「おはようございます」の声を響かせながら、車椅子を押したり、診療科への案内を行っています。

職員一人ひとりの行動が少し変わることで、患者さんや来院者の方々にもっと愛される病院になるのではないかと思います。今後は“おはよう運動”のバッジを作成し、看護部以外のアピールを行い、他の部門からの参加も募り、病院全体の運動として盛り上げていきたいです！！

(13階東病棟看護師長 森本富美子)



レゴブロックでの研修をはじめました

看護部では、今年度よりレゴブロックを取り入れた研修を開始し、初年度はリーダーシップ研修で行いました。テーマは「理想のリーダー像」です。初めての試みに最初は戸惑った表情の研修生たちでしたが、頭の中のイメージが形づくられ「見える化」され、さらに作った作品について語る中で、お互いの考えていることを知ることができ、「新鮮だった」「楽しく参加できた」「気づくことが多かった」など大変良い反応で、次のリーダーのシャドウイング研修にも具体的なイメージをもって臨むことができ、大変効果的な研修になりました。



看護部では研修を数多く行っていますが、どうしても座学や演習が中心になってしまいます。しかし、レゴでの研修は大変新鮮で、抽象度の高い課題ほど向いていたり、メンバー間の「相互理解」「信頼関係」を築くには良い研修方法だと実感しました。次年度の研修にもどんどん取り入れ、より主体的に学べて実践に結び付くような研修にしていきたいと考えています。

(看護部長 田中小百合 教育担当看護師長 村上博美)

看護管理者研修報告

なごみライフ訪問看護ステーションでの研修を通じて



今回、初めての試みであり手探りの中での研修となったが、『場は違えど同じ管理者』として相互研修させていただき思いで取り組んだ。この研修で私は、医療機関で看護提供する看護師たちが在院日数の減少している中、退院支援の在り方に如何に苦慮しているかを知った。また在宅で支援する者は、退院後の生活のフィードバックが足りていないことを痛感した。苦慮しながら退院支援を組み立てている医療機関の担当者が正当な評価（退院後の生活状況）を知る機会を得ていないことに反省を覚える。退院支援の正解はない。大切なことは、お互いの専門性を知り相手を信じて繋



げることではないか？そのためにも、見えない相手を知る努力を続ける必要がある。その1つにこの研修が有効であると考え。次年度も是非継続していただきたい。圓尾氏は訪問看護師のアセスメント能力、とくにフィジカルアセスメント能力の高さに驚いておられた。しかし、訪問看護には聴診器しかない。看護の質を担保するためにアセスメントは否応なく洗練されブラッシュアップされる。これもまた、特別なことではない、ということをご理解いただき研修を終えられた。

(なごみライフ訪問看護ステーション 管理者
訪問看護認定看護師 山本 恵)

看護管理者研修として初めての試みで、訪問看護ステーションに、2週間研修に行かせて頂きました。在宅医療の現場を知ることで、どう繋げばよいかを導き出したいと思い、訪問の同行はもちろんのこと、合同カンファレンスや入院後初回カンファレンス、退院前居宅訪問など受ける側を見させて頂きました。特に退院直後から連続で訪問させて頂いた症例では、どんな風に在宅での療養が整っていくか知ることができ、病院で考えたプランはそのまま療養生活に組み込めない現状を理解しました。送り出す側は患者・家族が安心して療養先を在宅へ移せるように支えることが役割であり、受ける側と情報共有することが繋がることと理解できました。



それから、今回の研修では看護師が訪問の目的を明確にし、得た情報から療養生活上の問題点の抽出し、その場でケアに繋げ、一回一回の訪問を完結しながら療養生活を整えていく、また、タイムリーな医師への報告やケアマネージャーとの連携で即座にサービス内容を変更するところを目の当たりにし、レベルの高い観察力や的確な判断での行動力など看護力の高さに驚きました。

今回の研修ではいろいろな方々にお世話になり、学びの多い研修となりました。この学びを現場に還元していきたいと思っております。ありがとうございました。

(11階西病棟看護師長 圓尾亜由美)



退院後居宅訪問に伺って



居宅訪問とは、入院医療機関が行う訪問指導です。医療ニーズの高い患者がスムーズに在宅療養に移行し、安全・安心な在宅療養を継続できることを目的としています。

今回入院中に潰瘍処置・HPNの清潔管理の指導を行ったAさん宅へ訪問しました。退院後初回外来時に本人や外来看護師・主治医と情報共有し、自宅へは訪問看護師と共に伺いました。自宅でのAさんの表情がとても明るく、入院中より生き生きされていたのが印象的で、在宅療養は患者のQOLをこんなにも高めるのかと驚きました。

訪問では入院中に指導した処置を再度確認。「いつもつもこんな風にやっている。ここが見えにくい。」と入院中より積極的に話され、暮らしの中で具体的にどうすればやりやすくなるか本人や訪問看護師と共に検討することが出来ました。入院中の決まった指導を行うだけでなく、暮らしの場に合わせてケアを工夫することが、Aさんにとって本当に意味があるのだと実感しました。また、私も生活環境を知る事で、より患者に寄り添ったケアを検討できると感じました。継続看護の面では、訪問看護師と実際に顔を合わせて情報共有することで、より細やかな継続につながると実感し、また在宅を知る事で生きた連携ができるのではないかと強く感じました。訪問時の情報は院内で外来看護師に情報提供をしました。患者がどんな暮らしをしたいかを中心に、希望に合った療養生活を地域・外来看護師など多くの医療スタッフと可能にしていくことが看護の醍醐味だと実感しました。今回の経験を今後の退院支援と地域等との連携に活かしていきたいです。



在宅カンファレンスをしている田瀬看護師
(9階西病棟看護師 田瀬浩乃)

「第16回 JCHO 大阪病院 ケア連携の会」開催報告



ケア連携の会は、退院後にその人らしい生活をどのように支えるか、どのようにケアを繋いでいくのかを地域の医療・介護関係職種の方々と共に深めていきたいと考え、平成24年度より開催しています。

第16回ケア連携の会は、平成29年11月7日に、地域施設59名の方々と当院職員38名計97名と多くの方が参加し、クオレ訪問看護ステーション姫島の藤倉看護師からの

事例をもとに「慢性疾患を有する患者・家族が安心して生活していくための連携について」をテーマに検討会を行いました。地域の参加者からは、「一人の患者の事例を通し他職種の方と視点の違う意見交換ができ、良い学びであった。」や「キーパーソンへの関わり方などの具体的な意見が聞け、今後の実践に活用できる。」と好評でした。また患者さんご家族が地域で安心して生活を続けられるよう多方面からサポートできるチーム医療として連携していきたいという意見交換ができました。今後も事例検討会や医療・看護トピックスを重ね、ケア連携の会をますます発展していきたいと思っております。

(外来副看護師長 中筋葉子)



『RCA 分析』での活動が



大阪病院賞 優秀賞を受賞しました!!



発生したインシデント・アクシデントの事象より、問題点や事故の原因を追究して、再発を防止することを目的とした分析ツール『RCA 分析』を導入して 10 年、「リンクナースの苦勞が少しでも報われれば」と思い大阪病院賞に応募しました。

207 年に CV ルートの接続を外す部分を間違え、あわや空気塞栓を発症しかけたという事象が発生し、RCA 分析を行った結果、システムや管理の問題が導き出され RCA 分析の有用性が看護部の中で広がりました。また大変落ち込んでいた当事者の心は救われました。以降、各部署のリンクナースが主体となり、病院全体で 10～20 件/年実施し、その年度の効果的な対策事例、報告部署以外にも発生する可能性が高い事例等を紹介する発表会を行っています。その積み重ねの結果、数年前より看護部主体ではありますが、診療部や薬剤部、臨床工学室など他部門も交えて積極的に活動することができてきました。今後も患者さんの安全だけではなく、職員も安心して働けるように改善活動に役立てていきたいと思ひます。

(医療安全管理室 統括リスクマネージャー 堀 美和子)



「訪問します!! 健康講座」が JCHO 学会優秀賞を受賞



この度、認定看護師・専門看護師(以下 CN/CNS)による「訪問します!! 健康講座」の活動が JCHO 学会において優秀賞を受賞することができました。「訪問します!! 健康講座」とは、2015 年度から CN/CNS が地域貢献と当院の医療・看護のアピールを目的として、地域住民や医療機関を対象に開催する無料の健康講座です。2015 年度は 4 講座で参加者延べ 150 人、2016 年度は 10 講座、参加者延べ 427 名、2017 年度は 12 月現在、11 講座、延べ 424 名に参加頂きました。今後私たちは健康講座を拡大できるように、地域住民が気軽に相談でき、看護の悩みを解決できる関係性を更に拡大します。また地域の医療機関にも講座の対象を拡げ、地域全体の看護ケアの向上を目指します。今後も事務担当者の協力を得ながら、CN/CNS 自ら地域に出向き、積極的に広報を続けていきたいと思ひます。



(集中ケア認定看護師 澤井真理)

編集後記

17 号では、地域医療の改革を進め安心して暮らせる地域づくりに貢献するという JCHO の理念に基づき看護部が地域に向け行っていることを記事にしました。またあいさつ運動の紹介もさせていただきました。地域住民の皆さま、近隣の医療機関の方々に少しでも親しみを持っていただけたらと思ひます。

(集中ケア認定看護師 中村明美)

